

# かまぐらの 環境

平成22年度 鎌倉市環境調査データ集

## 【目 次】

### 第1章 公害関係法令手続き状況

(1) 神奈川県生活環境の保全等に関する条例委譲事務実施状況	1
(2) 騒音規制法事務処理実施状況	2
(3) 振動規制法事務処理実施状況	2
(4) 騒音規制法特定施設設置状況	3
(5) 振動規制法特定施設設置状況	3
(6) 大気汚染防止法特定施設設置状況	3
(7) 水質汚濁防止法特定施設設置状況	4
(8) ダイオキシン類対策特別措置法特定施設設置状況	5
(9) 公害防止管理者等の選任届出状況	5

### 第2章 公害苦情と処理状況

(1) 苦情処理状況	6
(2) 苦情発生状況	7

### 第3章 公害の現況と対策

#### I 大気

(1) 環境基準	9
(2) 汚染物質測定状況	10
(3) 光化学スモッグの発生状況	14
(4) 自動車排出ガス等環境調査	15
(5) 二酸化窒素濃度の調査	17
(6) 酸性雨調査	19

#### II 水質

(1) 環境基準	20
(2) 河川水質調査	23
(3) 神奈川県による水質測定結果	34

#### III 化学物質

(1) 環境基準	37
(2) 一般環境におけるダイオキシン類等の測定結果	38

#### IV 地盤沈下

(1) 地盤沈下調査	40
------------	----

## 第1章 公害関係法令手続き状況

本市では、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、騒音規制法、振動規制法及び特定工場における公害防止組織の整備に関する法律に基づき、工場・事業場の届出等に関する事務を行っています。各届出等の状況は、次のとおりです。

### (1) 神奈川県生活環境の保全等に関する条例委譲事務実施状況

#### ア 指定事業所等に関する申請・経由事務

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指定事業所数（うち環境管理事業所数）		183(7)	180(7)	176(7)	168(7)	164
設置、変更許可及び認定状況	設置許可申請	0	2	0	0	0
	設置許可	0	2	0	0	0
	変更許可申請	9	3	2	2	3
	変更許可	9	3	2	2	3
	環境管理事業所認定申請	6	1	0	5	1
	認定	6	1	0	5	1
その他の届出状況	事業開始届	0	1	0	0	1
	変更完了届	4	2	3	0	4
	変更計画中止届	0	0	0	0	0
	変更計画届	3	1	0	0	0
	変更計画早期着手届	0	0	0	0	0
	変更届	20	15	11	19	11
	地位承継届	5	1	1	1	0
	廃止等届	9	5	4	8	3
	現況届	0	0	1	0	0
	環境配慮書	4	1	2	0	3
	環境管理事業所変更届	5	5	8	3	9

#### イ 特定行為の制限等に関する受理事務

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
不飽和ポリエステル樹脂塗布作業開始届	0	0	0	0	0
不飽和ポリエステル樹脂塗布作業変更届	0	0	0	0	0
不飽和ポリエステル樹脂塗布作業中止届	0	0	0	0	0

#### ウ 応急の措置等に関する報告の受理事務

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
非常時応急措置等完了報告書	0	0	0	0	0

## (2) 騒音規制法事務処理実施状況

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
特定施設	設置届	2	2	3	1	0
	使用届	0	0	0	0	0
	数変更届	1	0	0	0	2
	防止の方法変更届	0	0	0	0	0
	氏名等変更届	8	4	4	12	5
	使用全廃届	0	0	0	5	3
	承継届	0	0	0	3	0
	計	11	6	7	21	10
特定建設作業	くい打ち機等を使用する作業	0	2	0	1	3
	びょう打ち機等を使用する作業	0	0	0	0	0
	さく岩機を使用する作業	56	56	73	76	97
	空気圧縮機を使用する作業	10	11	15	4	13
	コンクリートプラント等を設けて行う作業	1	0	0	0	0
	バックホウを使用する作業	35	34	40	27	35
	トラクターショベルを使用する作業	1	0	0	0	0
	ブルドーザーを使用する作業	2	0	0	3	0
	計	105	103	128	111	148

## (3) 振動規制法事務処理実施状況

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
特定施設	設置届	2	1	2	0	0
	使用届	0	0	0	0	0
	数及び使用の方法変更届	1	2	2	0	3
	防止の方法変更届	0	0	0	0	0
	氏名等変更届	5	4	3	11	3
	使用全廃届	0	0	0	3	4
	承継届	0	0	0	1	0
	計	8	7	7	15	10
特定建設作業	くい打ち機等を使用する作業	0	4	1	1	1
	鋼球を使用して破壊する作業	0	0	0	0	0
	舗装版破碎機を使用する作業	2	1	2	1	0
	ブレーカーを使用する作業	37	36	36	33	38
	計	39	41	39	35	39

## (4) 騒音規制法特定施設設置状況

施行令別表第1による区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(1) 金属加工機械	153	153	158	141	143
(2) 空気圧縮機及び送風機	730	762	767	760	725
(5) 建設用資材製造機械	2	2	2	2	2
(7) 木材加工機械	36	36	36	36	36
(9) 印刷機械	40	40	40	40	40
(10) 合成樹脂用射出成形機	67	67	67	67	61
(11) 鋳型造型機	9	9	9	9	9
特定施設総数	1,037	1,069	1,079	1,055	1,016
特定工場等総数	138	140	143	139	136

## (5) 振動規制法特定施設設置状況

施行令別表第1による区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(1) 金属加工機械	290	291	301	283	285
(2) 圧縮機	246	254	256	251	236
(3) 土石用又は鉱物用の破砕機・摩砕機 ・ふるい及び分級機	10	10	10	10	10
(6) 木材加工機械	2	2	2	2	2
(7) 印刷機械	14	14	14	14	14
(8) ゴム練用又は合成樹脂練用のロール機	1	1	1	1	1
(9) 合成樹脂用射出成形機	111	111	111	111	105
(10) 鋳型造型機	5	5	5	5	5
特定施設総数	679	688	700	677	658
特定工場等総数	58	59	61	58	54

## (6) 大気汚染防止法特定施設設置状況

施行令別表第1による区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(1) ボイラー	67	69	68	72	67
(5) 金属溶解炉	2	2	2	2	2
(13) 廃棄物焼却炉	4	4	4	4	4
(29) ガスタービン	6	6	6	6	6
(30) ディーゼル機関	17	18	19	20	22
(31) ガス機関	0	0	0	2	2
特定施設総数	96	99	99	106	103
工場・事業場総数	43	43	43	44	44

※設置状況の提供は神奈川県

## (7) 水質汚濁防止法特定施設設置状況

施行令別表第1による区分	20年度		21年度		22年度	
	工場数	50m <sup>3</sup> 以上	工場数	50m <sup>3</sup> 以上	工場数	50m <sup>3</sup> 以上
1の2 畜産農業又はサービス業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
2 畜産食料品製造業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
4 野菜又は果実を原料とする保存食料品製造業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
10 飲料製造業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
16 めん類製造業の用に供する湯煮施設	10	0	10	0	10	0
17 豆腐又は煮豆の製造業用に供する湯煮施設	20	0	20	0	20	0
23の2 新聞業、出版業、印刷業又は製版業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
32 有機顔料又は合成染料の製造業の用に供する施設	1	0	1	0	1	0
46 第28号から前号に掲げる事業以外の有機化学工業製品製造業の用に供する施設	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
47 医薬品製造業の用に供する施設	1 (1)	0	1 (1)	0	1 (1)	0
54 セメント製品製造業の用に供する施設	0	0	0	0	0	0
55 生コンクリート製造業の用に供するパッチャープラント	2	0	2	0	2	0
63 金属製品製造業又は機械器具製造業（武器製造業を含む）の用に供する施設	4 (2)	0	4 (2)	0	4 (2)	0
65 酸又はアルカリによる表面処理施設	2	0	2	0	2	0
66 電気めっき施設	2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)
66の2 旅館業の用に供する施設	63	0	63	0	63	0
66の4 弁当仕出屋又は弁当製造業（総床面積360m <sup>2</sup> 未満の事業場を除く）の用に供するちゅう房施設	2	0	2	0	2	0
66の5 飲食店（総床面積420m <sup>2</sup> 未満の事業場を除く）に設置されるちゅう房施設	5	1	5	1	5	1
67 洗たく業の用に供する洗浄施設	65 (14)	0	65 (14)	0	65 (14)	0
68 写真現像業の用に供する自動式フィルム現像洗浄施設	1	0	1	0	1	0
68の2 病院（病床数が300以上であるもの）に設置される施設	2	1	2	1	1	0
71 自動式車両洗浄施設	34	1	33	1	33	1
71の2 科学技術に関する研究等を行う事業場で総理府令で定めるものに設置されるそれらの業務の用に供する施設	6 (5)	0	6 (5)	0	6 (5)	0
71の3 一般廃棄物処理施設である焼却施設	2	0	2	0	2	0
71の5 トリクロロエチレン又はテトラクロロエチレンによる洗浄施設	1 (1)	0	1 (1)	0	0	0
72 し尿処理施設（処理対象人員500人以下のし尿処理施設を除く）	1	0	1	0	1	0
73 下水道終末処理施設	2	2	2	2	2	2
計	232 (26)	7 (2)	231 (26)	7 (2)	229 (25)	6 (2)

50m<sup>3</sup>以上：日排水量50m<sup>3</sup>以上の工場

（）内は有害物質使用工場数

※設置状況の提供は神奈川県

(8) ダイオキシン類対策特別措置法特定施設設置状況

施行令別表第1による区分	19年度	20年度	21年度	22年度
(5) 廃棄物焼却炉であって、火床面積が0.5㎡以上又は焼却能力が1時間当たり50kg以上のもの	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)
計	5	5	5	5

施行令別表第2による区分	19年度	20年度	21年度	22年度
(7) 廃棄物焼却炉の廃ガス処理施設等	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)
(9) 下水道終末処理施設	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
計	3	3	3	3

( ) 内は事業所数

※設置状況の提供は神奈川県

(9) 公害防止管理者等の選任届出状況（騒音・振動関係）  
（特定工場における公害防止組織の整備に関する法律）

ア 特定工場数・公害防止管理者等の選任状況

業種	特定工場数	公害防止統括者数 (同代理者数)	公害防止管理者数 (同代理者数)	
			騒音関係	振動関係
金属製品製造業	1	1(1)	1(1)	1(1)
電気機械器具製造業	1	1(1)	0(0)	1(1)
計	2	2(2)	1(1)	2(2)

イ 公害防止管理者等の届出状況

選任・解任届出	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
公害防止統括者（同代理者）	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)
騒音関係公害防止管理者（同代理者）	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
振動関係公害防止管理者（同代理者）	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

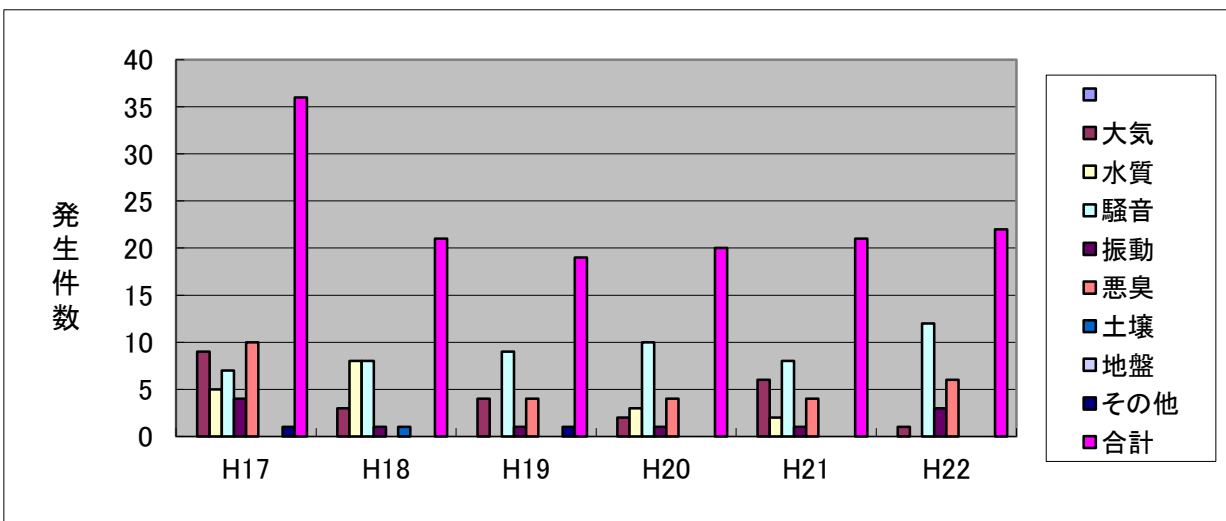
## 第2章 公害苦情と処理状況

本市の公害苦情は、事業活動によるものから住民の日常生活によるものまで多岐に渡っています。その内容は、廃材の屋外燃焼によるばい煙、資材置場や建設作業現場での騒音及び振動などです。中でもダイオキシン類に対する住民の不安が高まっていることから、野焼きによる屋外燃焼について多くの苦情が寄せられています。また、隣同志のコミュニケーションの不足などからくる近隣苦情が近年増加している傾向にあります。

平成22年度の苦情発生件数は22件でした。苦情を種類別に見てみると大気関係が4.5%（1件）、騒音関係が54.5%（12件）、振動関係が13.7%（3件）、悪臭関係が27.3%（6件）、水質関係が0%（0件）となっています。

発生源としては、土木等建設工事業が全体の50%（11件）、商店・飲食店が22.7%（5件）、その他が13.7%（3件）、製造事業場（木製品・その他）9.1%（2件）、家庭生活が4.5%（1件）、となっています。また、発生源の地域を用途地域別に見てみると住居系地域が多く、全体の54.5%（12件）、商業系地域が13.6%（3件）、工業系地域が18.3%（4件）、その他地域が13.6%（3件）となっています。

苦情発生件数の推移



### (1) 苦情処理状況（各年度別）

年 度		大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下	その他	合計	処理率%
17年度	発生件数	9	5	7	4	10	0	0	1	36	
	処理件数	2	1	2	2	1	0	0	0	8	22.2
18年度	発生件数	3	8	8	1	0	1	0	0	21	
	処理件数	0	3	1	0	0	1	0	0	5	23.8
19年度	発生件数	4	0	9	1	4	0	0	1	19	
	処理件数	3	0	5	0	2	0	0	1	11	57.9
20年度	発生件数	2	3	10	1	4	0	0	0	20	
	処理件数	1	2	7	1	1	0	0	0	12	60.0
21年度	発生件数	6	2	8	1	4	0	0	0	21	
	処理件数	2	2	7	0	4	0	0	0	15	71.4
22年度	発生件数	1	0	12	3	6	0	0	0	22	
	処理件数	0	0	6	2	2	0	0	0	10	45.5
22年度以前 繰越分	繰越件数	6	2	6	1	3	0	0	0	18	
	処理件数	4	0	4	1	2	0	0	0	11	61.1



## (2) 苦情発生状況

## ア 22年度月別

月	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下	その他	合計
4月	0	0	1	0	0	0	0	0	1
5月	0	0	0	1	1	0	0	0	2
6月	0	0	3	0	0	0	0	0	3
7月	0	0	2	0	1	0	0	0	3
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	2	0	0	0	0	0	2
10月	0	0	0	0	1	0	0	0	1
11月	0	0	0	1	2	0	0	0	3
12月	1	0	1	0	1	0	0	0	3
1月	0	0	2	0	0	0	0	0	2
2月	0	0	1	0	0	0	0	0	1
3月	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	1	0	12	3	6	0	0	0	22

## イ 22年度用途地域別

地 域	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下	その他	合計
第一種低層住居専用地域	0	0	4	1	2	0	0	0	7
第一種中高層住居専用地域	0	0	2	1	1	0	0	0	4
第二種中高層住居専用地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第一種住居地域	0	0	1	0	0	0	0	0	1
第二種住居地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0
準住居地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近隣商業地域	0	0	0	0	1	0	0	0	1
商業地域	0	0	2	0	0	0	0	0	2
準工業地域	0	0	2	1	1	0	0	0	4
工業地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工業専用地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の地域	1	0	1	0	1	0	0	0	3
合 計	1	0	12	3	6	0	0	0	22

ウ 22年度発生源別

発生源		大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下	その他	合計
製造事業場	食料品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繊維・衣服・その他の繊維製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	木材・木製品・家具	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	パルプ・紙製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	化学工業・石油・石炭製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	窯業・土石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉄鋼・非金属・金属製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械器具	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	1
修理工場		0	0	0	0	0	0	0	0	0
建築・土木工事		0	0	6	3	2	0	0	0	11
交通機関	自動車	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉄道	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
牧畜・養豚・養鶏場		0	0	0	0	0	0	0	0	0
下水清掃業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
娯楽・遊興・スポーツ施設		0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭生活		0	0	0	0	1	0	0	0	1
鉱業施設・採石場		0	0	0	0	0	0	0	0	0
商店・飲食店（うちカラオケ騒音）		0	0	2	0	3	0	0	0	5
洗濯・理容・浴場業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃品回収業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業・園芸サービス業		0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	2	0	0	0	0	0	3
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		1	0	12	3	6	0	0	0	22

### 第3章 公害の現況と対策 I 大気

#### (1) 環境基準

物質	環境上の条件	測定方法	達成期間
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値0.1ppm以下であること	溶液導電率法または紫外線蛍光法	維持され、または原則として5年以内において達成されるよう努めるものとする
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること	非分散型赤外分析計を用いる方法	維持され、または早期に達成されるよう努めるものとする
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内、またはそれ以下であること	ザルツマン試薬を用いる吸光光度法またはオゾンを用いる化学発光法	(1) 1時間値の1日平均値が0.06ppmを超える地域にあっては、1時間値の1日平均値0.06ppmが達成されるよう努めるものとし、その達成期間は原則として7年以内とする (2) 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域にあっては、原則としてこのゾーン内において現状程度の水準を維持し、またはこれを大きく上回ることをとらないよう努めるものとする
浮遊粒子状物質 (SPN)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること	濾過補集による重量濃度測定方法またはこの方法によって測定された重量濃度と直線的な関係を有する量が得られる光散乱法、圧電天びん法若しくはベータ線吸収法	維持され、または早期に達成されるよう努めるものとする
光化学オキシダント (OX)	1時間値が0.06ppm以下であること	中性ヨウ化カリウム溶液を用いる吸光光度法若しくは電量法、紫外線吸収法またはエチレンを用いる化学発光法	維持され、または早期に達成されるよう努めるものとする

(2) 汚染物質測定状況

神奈川県では大気測定局として、一般環境大気測定局と自動車排出ガス測定局をそれぞれ一局ずつ鎌倉市内に設置し、大気の汚染状況を常時監視しています。

一般環境大気測定局………住宅地での汚染物質の測定(市庁舎屋上に設置)

自動車排出ガス測定局………幹線道路沿道での汚染物質の測定(鎌倉市岡本に設置)

ア 汚染物質経年変化(1時間値の平均値)

項目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
市庁舎屋上	二酸化硫黄(ppm)	0.004	0.003	0.003	0.003	0.002
	(日平均値の2%除外値)	(0.008)	(0.006)	(0.006)	0.005	0.004
	二酸化窒素(ppm)	0.019	0.018	0.017	0.015	0.015
	(日平均値の98%値)	(0.036)	(0.038)	(0.035)	0.033	0.033
	浮遊粒子状物質(mg/m <sup>3</sup> )	0.020	0.023	0.022	0.02	0.021
	(日平均値の2%除外値)	(0.048)	(0.055)	(0.049)	0.043	0.051
	光化学オキシダント(日)	0	3	2	0	1

※ 光化学オキシダントは市庁舎屋上で1時間値が 0.12ppmを超えた日数です

項目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
鎌倉市岡本	二酸化窒素(ppm)	0.022	0.022	0.015	0.021	0.019
	(日平均値の98%値)	(0.045)	(0.049)	(0.027)	0.039	0.039
	一酸化炭素(ppm)	0.5	0.5	0.4	0.6	0.4
	(日平均値の2%除外値)	(1.0)	(1.0)	(0.6)	1.1	0.9
	浮遊粒子状物質(mg/m <sup>3</sup> )	0.03	0.025	0.024	0.021	0.023
	(日平均値の2%除外値)	(0.084)	(0.077)	(0.051)	0.052	0.058

イ 22年度二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)測定結果(市庁舎屋上)

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の平均値(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	日平均値の最高値(ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日数(日)	1時間値が0.1ppmを超えた時間(hour)	日平均値の2%除外値(ppm)
22年4月	30	710	0.001	0.013	0.003	0	0	0.003
5月	31	736	0.002	0.016	0.004	0	0	0.003
6月	30	713	0.002	0.013	0.005	0	0	0.004
7月	31	735	0.002	0.005	0.003	0	0	0.003
8月	30	729	0.002	0.006	0.004	0	0	0.003
9月	30	713	0.002	0.007	0.003	0	0	0.003
10月	31	739	0.003	0.012	0.006	0	0	0.005
11月	30	709	0.003	0.012	0.004	0	0	0.004
12月	31	739	0.002	0.010	0.004	0	0	0.004
23年1月	31	735	0.002	0.010	0.004	0	0	0.003
2月	28	663	0.002	0.010	0.006	0	0	0.005
3月	31	723	0.002	0.017	0.004	0	0	0.003
年間	364	8644	0.002	0.017	0.006	0	0	0.004

ウ 22年度二酸化窒素(NO2)測定結果

測定年月	有効測定 日数(日)	測定時間 数(hour)	1時間値 の平均値 (ppm)	1時間値 の最高値 (ppm)	日平均値 の最高値 (ppm)	日平均値 が0.04ppm を超えた 日数(日)	日平均値 が0.06ppm を超えた 日数(日)	日平均値 の98%値 (ppm)	
市庁舎屋上	22年4月	30	707	0.014	0.039	0.025	0	0	0.020
	5月	31	735	0.011	0.032	0.017	0	0	0.017
	6月	30	712	0.011	0.034	0.020	0	0	0.018
	7月	31	736	0.009	0.033	0.015	0	0	0.014
	8月	30	728	0.008	0.043	0.016	0	0	0.015
	9月	30	713	0.012	0.051	0.029	0	0	0.018
	10月	31	738	0.016	0.074	0.035	0	0	0.025
	11月	30	710	0.021	0.061	0.039	0	0	0.032
	12月	31	736	0.020	0.062	0.043	1	0	0.036
	23年1月	31	735	0.019	0.055	0.031	0	0	0.030
	2月	21	511	0.021	0.062	0.041	1	0	0.041
	3月	30	706	0.014	0.048	0.026	0	0	0.026
	年間	356	8467	0.015	0.074	0.043	2	0	0.033

測定年月	有効測定 日数(日)	測定時間 数(hour)	1時間値 の平均値 (ppm)	1時間値 の最高値 (ppm)	日平均値 の最高値 (ppm)	日平均値 が0.04ppm を超えた 日数(日)	日平均値 が0.06ppm を超えた 日数(日)	日平均値 の98%値 (ppm)	
鎌倉市岡本	22年4月	30	715	0.020	0.049	0.033	0	0	0.030
	5月	31	737	0.016	0.041	0.027	0	0	0.023
	6月	30	715	0.015	0.042	0.029	0	0	0.028
	7月	31	740	0.010	0.046	0.018	0	0	0.016
	8月	31	739	0.010	0.049	0.022	0	0	0.021
	9月	30	716	0.016	0.044	0.033	0	0	0.025
	10月	31	739	0.023	0.096	0.039	0	0	0.031
	11月	30	714	0.027	0.075	0.040	0	0	0.040
	12月	31	737	0.025	0.061	0.043	2	0	0.043
	23年1月	31	738	0.025	0.061	0.036	0	0	0.035
	2月	28	669	0.025	0.070	0.049	2	0	0.048
	3月	27	656	0.019	0.053	0.030	0	0	0.028
	年間	361	8615	0.019	0.096	0.049	4	0	0.039

エ 22年度浮遊粒子状物質(SPM)測定結果

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の 平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	日平均値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.2mg/m <sup>3</sup> を 超えた時間 (hour)	日平均値が 0.1mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 (日)	日平均値 の2% 除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	
市庁舎屋上	22年4月	30	717	0.017	0.064	0.030	0	0	0.028
	5月	31	739	0.022	0.093	0.052	0	0	0.050
	6月	30	717	0.025	0.079	0.052	0	0	0.038
	7月	31	739	0.031	0.084	0.054	0	0	0.047
	8月	30	735	0.026	0.079	0.060	0	0	0.046
	9月	30	716	0.023	0.067	0.051	0	0	0.045
	10月	29	713	0.019	0.061	0.034	0	0	0.034
	11月	30	716	0.023	0.094	0.078	0	0	0.074
	12月	31	740	0.018	0.076	0.035	0	0	0.033
	23年1月	31	738	0.013	0.131	0.031	0	0	0.031
	2月	28	667	0.022	0.099	0.064	0	0	0.048
	3月	31	726	0.019	0.055	0.036	0	0	0.034
	年間	362	8663	0.021	0.131	0.078	0	0	0.051

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の 平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	日平均値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.2mg/m <sup>3</sup> を 超えた時間 (hour)	日平均値が 0.1mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 (日)	日平均値の 2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	
鎌倉市岡本	22年4月	30	718	0.021	0.086	0.044	0	0	0.044
	5月	31	742	0.024	0.127	0.059	0	0	0.058
	6月	30	715	0.024	0.091	0.061	0	0	0.043
	7月	31	739	0.027	0.113	0.053	0	0	0.053
	8月	30	737	0.029	0.083	0.063	0	0	0.057
	9月	28	688	0.023	0.079	0.058	0	0	0.053
	10月	31	741	0.023	0.091	0.046	0	0	0.043
	11月	29	712	0.024	0.092	0.075	0	0	0.066
	12月	31	742	0.020	0.070	0.038	0	0	0.038
	23年1月	31	740	0.015	0.066	0.040	0	0	0.036
	2月	28	670	0.025	0.116	0.075	0	0	0.056
	3月	30	717	0.021	0.082	0.043	0	0	0.038
	年間	360	8661	0.023	0.127	0.075	0	0	0.058

オ 22年度一酸化炭素(CO)測定結果(鎌倉市岡本)

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の平均(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	日平均値の最高値(ppm)	日平均値が10ppmを超えた日数(日)	8時間値が20ppmを超えた回数(回)	日平均値の2%除外値(ppm)
22年4月	30	714	0.4	1.1	0.6	0	0	0.5
5月	31	740	0.4	0.8	0.5	0	0	0.5
6月	30	715	0.3	0.9	0.4	0	0	0.4
7月	31	739	0.2	0.7	0.4	0	0	0.4
8月	31	739	0.2	0.8	0.4	0	0	0.4
9月	30	715	0.3	1.3	0.6	0	0	0.5
10月	31	738	0.5	1.5	0.8	0	0	0.7
11月	30	715	0.6	1.9	1.1	0	0	0.9
12月	31	740	0.6	2.3	1.0	0	0	1.0
23年1月	31	738	0.6	1.9	0.8	0	0	0.8
2月	28	669	0.5	2.0	1.0	0	0	0.9
3月	30	714	0.4	1.3	0.8	0	0	0.5
年間	364	8676	0.4	2.3	1.1	0	0	0.9

カ 22年度光化学オキシダント(OX)測定結果(市庁舎屋上)

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の平均値(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	1時間値が0.06ppmを超えた日数・時間		1時間値が0.12ppmを超えた日数・時間		日平均値の最高値(ppm)
					(日)	(hour)	(日)	(hour)	
22年4月	30	715	0.038	0.070	6	36	0	0	0.052
5月	31	737	0.041	0.098	12	89	0	0	0.061
6月	30	712	0.029	0.083	9	23	0	0	0.048
7月	31	736	0.023	0.092	5	21	0	0	0.056
8月	30	731	0.017	0.098	5	20	0	0	0.035
9月	30	715	0.026	0.127	8	35	1	1	0.059
10月	31	740	0.024	0.074	4	7	0	0	0.036
11月	30	710	0.019	0.056	0	0	0	0	0.036
12月	31	740	0.018	0.045	0	0	0	0	0.032
23年1月	31	737	0.022	0.049	0	0	0	0	0.032
2月	27	664	0.028	0.060	0	0	0	0	0.041
3月	31	726	0.037	0.073	6	25	0	0	0.055
年間	363	8663	0.027	0.127	55	256	1	1	0.061

キ 22年度昼間(5時～21時)の光化学オキシダント(OX)測定結果(市庁舎屋上)

測定年月	有効測定日数(日)	測定時間数(hour)	1時間値の平均値(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	1時間値が $\geq$ 0.06ppmを超えた日数・時間		1時間値が $\geq$ 0.12ppmを超えた日数・時間	
					(日)	(hour)	(日)	(hour)
22年4月	30	445	0.039	0.069	6	24	0	0
5月	31	458	0.043	0.098	11	65	0	0
6月	30	442	0.032	0.083	9	23	0	0
7月	31	458	0.026	0.092	5	21	0	0
8月	31	452	0.021	0.098	5	20	0	0
9月	30	445	0.030	0.127	7	33	1	1
10月	31	461	0.028	0.074	4	7	0	0
11月	30	440	0.023	0.056	0	0	0	0
12月	31	461	0.021	0.041	0	0	0	0
23年1月	31	459	0.024	0.049	0	0	0	0
2月	28	412	0.029	0.060	0	0	0	0
3月	31	450	0.039	0.073	4	21	0	0
年間	365	5383	0.030	0.127	51	214	1	1

(3) 光化学スモッグの発生状況

注意報発令件数及び被害者数の推移

項目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
発令日数	県全体	14	20	11	4	10
	湘南地域	12	7	5	2	7
	本市	0	3	2	2	7
被害者数	県全体	199	4	14	5	26
	湘南地域	27	1	0	2	18
	本市	13	1	0	0	13

(備考)注意報は、光化学オキシダントの1時間値が0.12ppm以上である大気汚染の状態になったときに発令されます。表中の本市の注意報発令日数は、市庁舎屋上の光化学オキシダント濃度の1時間値が0.12ppmを超えた日数を示します。



(4) 自動車排出ガス等環境調査

本市では、自動車排出ガスによる大気汚染の状況を把握するため、二酸化窒素と浮遊粒子状物質等の調査を、市内主要道路の7地点で年2回実施しています。

※長谷の11月の測定は特別警戒のため未実施

ア 22年度月別調査結果

(i) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) 測定結果 (24時間平均値 単位 : ppm)

地 点	平成22年5月	11月	年間平均値
青少年会館	0.013	0.033	0.023
長谷	0.011	---	0.011
腰越	0.017	0.038	0.028
手広	0.025	0.047	0.036
大船	0.014	0.036	0.025
フラワーセンター	0.014	0.038	0.026
関谷	0.018	0.037	0.028
月平均値	0.016	0.038	0.025

(ii) 浮遊粒子 (SPM) 状物質測定結果 (24時間平均値 単位 : mg/m<sup>3</sup>)

地 点	平成22年5月	11月	年間平均値
青少年会館	0.006	0.051	0.029
長谷	0.010	---	0.010
腰越	0.010	0.040	0.025
手広	0.007	0.066	0.037
大船	0.013	0.039	0.026
フラワーセンター	0.009	0.062	0.036
関谷	0.013	0.056	0.035
月平均値	0.010	0.052	0.028

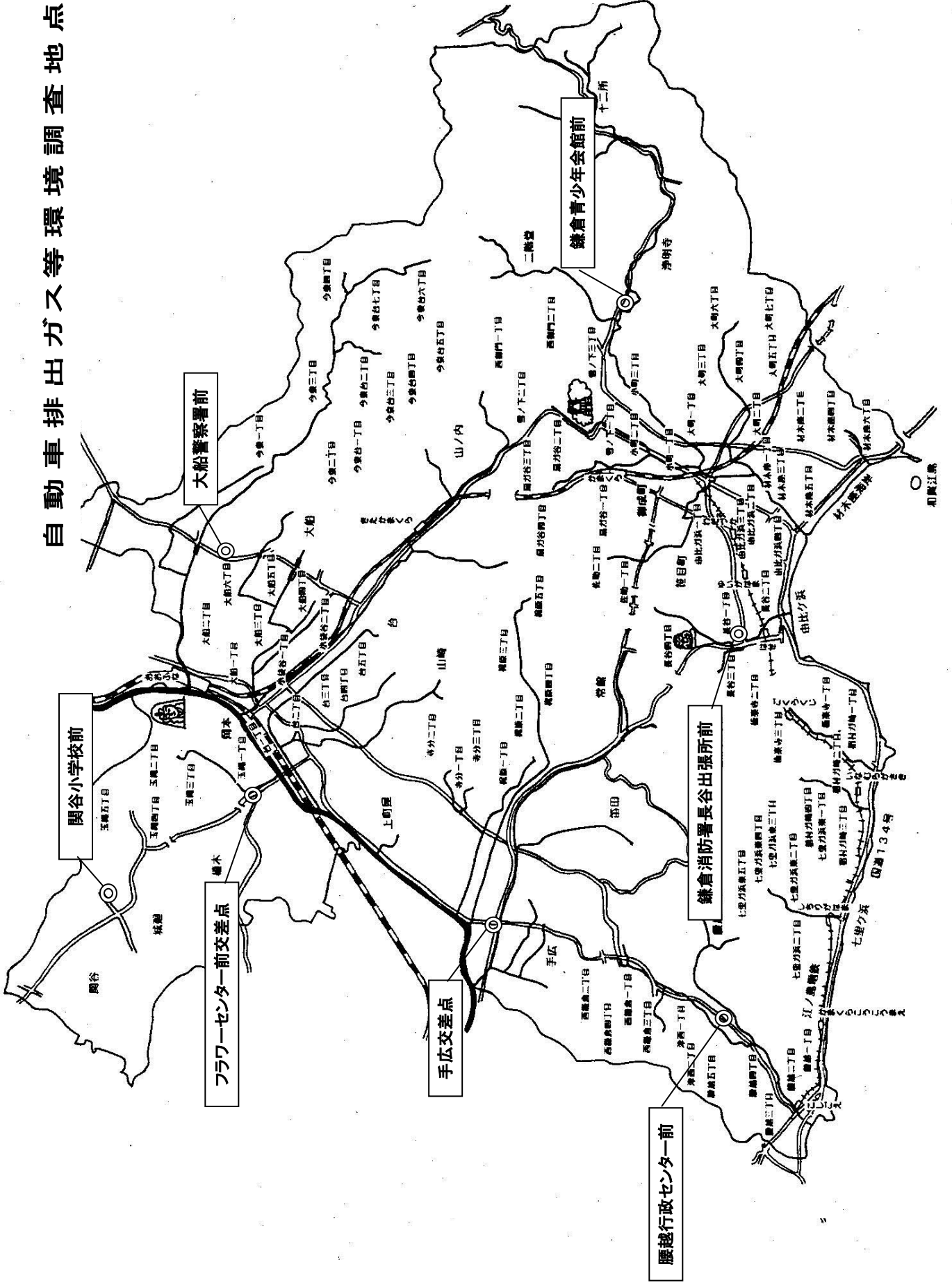
(iii) 自動車通行量測定結果 (単位 : 台/12時間)

地 点	平成22年5月	11月	年間平均値
青少年会館	8,539	6,704	7,622
長谷	6,828	---	6,828
腰越	9,904	9,344	9,624
手広	24,394	23,083	23,739
大船	9,339	9,188	9,264
フラワーセンター	11,875	11,406	11,641
関谷	11,900	11,906	11,903
月平均値	11,826	11,939	11,517

※ 通行量は12時間連続計測したものです。ただし、二輪車は観測の対象外としました。

青少年会館→鎌倉青少年会館前 長谷→鎌倉消防署長谷出張所前 腰越→腰越行政センター前  
 手広→手広交差点 大船→大船警察署前 フラワーセンター →フラワーセンター前交差点  
 関谷→関谷小学校前

自動車排出ガス等環境調査地点図



(5) 二酸化窒素濃度調査

大気汚染の原因の代表物質である二酸化窒素による市内大気汚染状況を把握するため、P T I O法による大気中の二酸化窒素濃度を調査しています。

ア 調査期間

平成22年4月～平成23年3月

イ 調査場所

市内7地点

ウ 調査方法

P T I O法による大気中二酸化窒素濃度調査

調査地点の施設の屋上にシェルターを設置し、捕集用ろ紙を内装したサンプラーをそのシェルター内に取り付け、1ヵ月暴露した後サンプラーを回収し分析を行います。

エ 二酸化窒素濃度年平均値の経年変化（単位：ppm）

調査地点	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
鎌倉市役所(御成町18-10)	0.019	0.021	0.015	0.016	0.015
第二小学校(二階堂878)	0.018	0.016	0.017	0.018	0.016
七里ガ浜浄化センター(七里ガ浜東5-3-1)	0.019	0.017	0.016	0.017	0.016
鎌倉消防署腰越出張所(腰越4-9-12)	0.022	0.017	0.019	0.018	0.017
深沢行政センター(常盤111-3)	0.020	0.019	0.016	0.019	0.018
今泉小学校(今泉2-13-1)	0.020	0.019	0.017	0.017	0.015
関谷小学校(関谷510)	0.023	0.024	0.021	0.022	0.018
市内全地点平均値	0.020	0.019	0.018	0.018	0.017

オ 22年度二酸化窒素濃度の測定結果（単位：ppm）

調査月	鎌倉市役所	第二小学校	七里ガ浜浄化センター	鎌倉消防署腰越出張所	深沢行政センター	今泉小学校	関谷小学校	月平均
4月	0.017	0.014	0.015	0.015	0.016	0.014	0.016	0.015
5月	0.0099	0.0095	0.011	0.012	0.011	0.010	0.015	0.011
6月	0.011	0.011	0.011	0.011	0.012	0.012	0.015	0.012
7月	0.0079	0.0085	0.0095	0.0091	0.011	0.0080	0.010	0.0091
8月	0.0074	0.0035	0.0078	0.0077	0.0088	0.0035	0.0083	0.0067
9月	0.010	0.0095	0.011	0.012	0.013	0.010	0.013	0.011
10月	0.022	0.020	0.020	0.024	0.023	0.020	0.018	0.021
11月	0.021	0.046	0.021	0.025	0.023	---	0.026	0.027
12月	0.024	---	0.026	0.026	0.027	0.027	0.028	0.026
23年1月	0.017	0.017	0.019	0.021	0.024	0.019	0.025	0.020
2月	0.021	0.021	0.024	0.025	0.026	0.023	0.028	0.024
3月	0.014	0.013	0.015	0.017	0.018	0.014	0.019	0.016
年平均	0.015	0.016	0.016	0.017	0.018	0.015	0.018	0.017

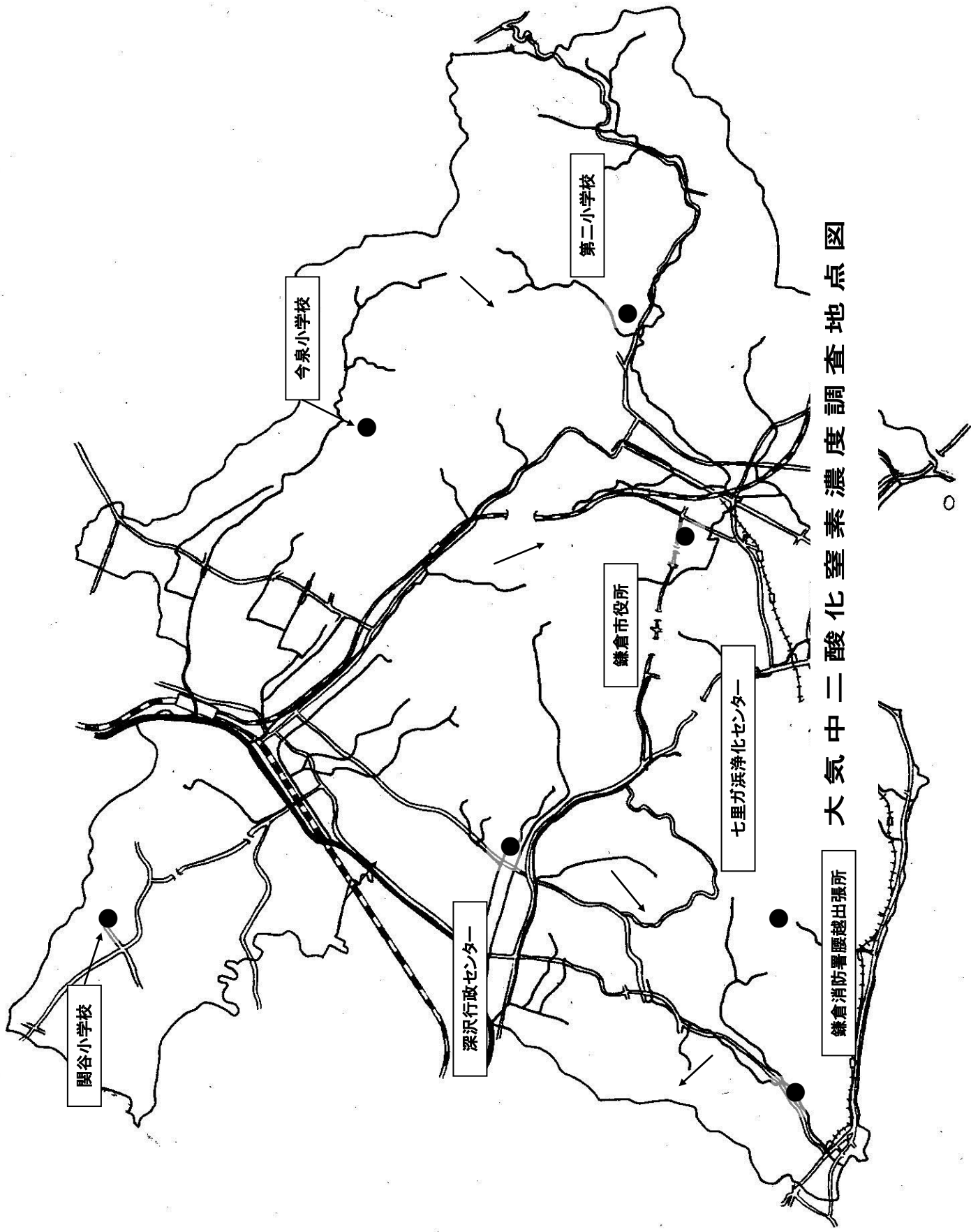
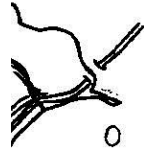


図 濃度調査地点 大気中二酸化窒素



(6) 酸性雨調査

鎌倉市では、市庁舎中庭（1階）にて水素イオン濃度計（pH計）を用いた簡易測定による酸性雨調査を行っています。22年度は延べ29回の測定を実施し、平均値は5.1で21年度より0.1高い値となりました。最も酸性の強かった値は4.0で、21年度と同様に酸性の強い雨が観測されました。

また、年間を通して全体の約89.7%が酸性雨（水素イオン濃度（pH）5.6以下の雨）であり、やや酸性度の強い雨も今年度何回か観測されており、酸性雨という地球温暖化問題が未だ解決されていないと考えられます。

ア 測定値

平均値	水素イオン濃度（pH）	5.1
最も酸性の強かった測定値	水素イオン濃度（pH）	4.0
最も酸性の弱かった測定値	水素イオン濃度（pH）	6.4

イ 経年水素イオン濃度（pH）測定結果

	19年度	20年度	21年度	22年度
市庁舎屋上	5.2	4.9	5.0	5.1

ウ 神奈川県による水素イオン濃度（pH）測定結果（かながわ環境白書より）

神奈川県では、環境省の「湿性沈着モニタリング手引書」に基づき、県内6市の協力を得て雨水を採取し、水素イオン濃度（pH）などを測定し、酸性雨の実態調査を行っています。

地点	19年度	20年度	21年度	22年度
川崎市川崎区	4.8	4.7	4.8	5.0
横浜市中区	4.7	不参加	不参加	不参加
横須賀市	4.5	4.6	4.6	不参加
相模原市	4.7	4.6	4.7	4.8
平塚市	4.6	4.7	4.7	4.9
小田原市	4.6	4.6	4.6	4.5
藤沢市	4.5	4.4	4.6	5.0

※ 神奈川県の共同調査に係る水素イオン濃度（pH）の年間平均値は、雨水を1週間サンプリングした際の期間降水量で重み付けをしています。

鎌倉市で行っている簡易測定データとは測定方法が異なるため単純に比較は出来ません。

### 第3章 公害の現況と対策 II 水質

#### (1) 環境基準

##### ア 人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値
カドミウム	0.01mg/l以下
全シアン	検出されないこと
鉛	0.01mg/l以下
六価クロム	0.05mg/l以下
砒素	0.01mg/l以下
総水銀	0.0005mg/l以下
アルキル水銀	検出されないこと
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	検出されないこと
ジクロロメタン	0.02mg/l以下
四塩化炭素	0.002mg/l以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/l以下
1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/l以下
トリス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下

項目	基準値
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/l以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/l以下
トリクロロエチレン	0.03mg/l以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/l以下
チウラム	0.006 mg/l以下
シマジン	0.003 mg/l以下
チオベンカルブ	0.02mg/l以下
ベンゼン	0.01mg/l以下
セレン	0.01mg/l以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/l以下
ふっ素	0.8mg/l以下
ほう素	1mg/l以下

#### 備考

- (i) 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
- (ii) 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。

##### イ 生活環境の保全に関する環境基準<河川> (湖沼を除く)

###### (ア)

類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
A A	水道1級 自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5~8.5	1mg/l以下	25mg/l以下	7.5mg/l以上	50MPN/100ml以下
A	水道2級 水産1級水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5~8.5	2mg/l以下	25mg/l以下	7.5mg/l以上	1,000MPN/100ml以下
B	水道3級 水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5~8.5	3mg/l以下	25mg/l以下	5mg/l以上	5,000MPN/100ml以下
C	水産3級 工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5~8.5	5mg/l以下	50mg/l以下	5mg/l以上	—
D	工業用水2級 農業用水及びEの欄に掲げるもの	6.0~8.5	8mg/l以下	100mg/l以下	2mg/l以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0~8.5	10mg/l以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2mg/l以上	—

備考

- (i) 水素イオン濃度 (pH) …溶液の酸性、アルカリ性を示す尺度。7が中性で、0に近づくほど酸性が強く、14に近づくほどアルカリ性が強い。  
 生物化学的酸素要求量 (BOD) …水の汚れを示す指標。高いほど汚れが大きい。  
 浮遊物質 (SS) …水中で浮遊している固形物質。高いほど汚れが大きい。  
 溶存酸素量 (DO) …水中に溶け込んでいる酸素の量。一般に汚れが大きいと値が小さくなる。
- (ii) 基準値は、日間平均値とする (湖沼、海域もこれに準ずる)。
- (iii) 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/l以上とする (湖沼もこれに準ずる)。

用語の説明

- (i) 自然環境保全…自然探勝等の環境保全
- (ii) 水道1級…ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
 水道2級…沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの  
 水道3級…前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- (iii) 水産1級…ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用  
 水産2級…サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物及び水産3級の水産生物用  
 水産3級…コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
- (iv) 工業用水1級…沈殿等による通常の浄水操作を行うもの  
 工業用水2級…薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの  
 工業用水3級…特殊の浄水操作を行うもの
- (v) 環境保全…国民の日常生活 (沿岸の遊歩等を含む。) において不快感を生じない限度

(イ)

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/l以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/l以下
生物B	コイ、フナ等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/l以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/l以下
平成15年11月5日付け環境省告示第123号により追加		

備考

- (i) 基準値は、日間平均値とする (湖沼、海域もこれに準ずる)。

(ウ)

環境基準	
滑川・神戸川 (B類型)	3mg/l以下 (生物化学的酸素要求量(BOD) 75%水質値)
境川水域 (D類型)	8mg/l以下 (生物化学的酸素要求量(BOD) 75%水質値)
平成13年10月23日付け神奈川県告示第664号により滑川はB類型 (直ちに達成)、神戸川はB類型 (5年以内で可及的速やかに達成) となった。	

ウ 生活環境の保全に関する環境基準<海域>

(ア)

類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)
A	水産1級 水浴 自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの	7.8~8.3	2mg/l以下	7.5mg/l以上	1,000MPN/100ml以下	検出されないこと
B	水産2級 工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8~8.3	3mg/l以下	5mg/l以上	—	検出されないこと
C	環境保全	7.0~8.3	8mg/l以下	2mg/l以上	—	—

用語の説明

- (i) 自然環境保全…自然探勝等の環境保全
- (ii) 水産1級…マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用  
水産2級…ボラ、ノリ等の水産生物用
- (iii) 環境保全…国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

(イ)

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/l以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/l以下
平成15年11月5日付け環境省告示第123号により追加		

(ウ)

環境基準	
由比ヶ浜沖・七里ヶ浜沖（全層）（A類型）	2mg/l以下（化学的酸素要求量(COD) 75%水質値）



(2) 河川水質調査

河川の水質の状況を把握するため、市内の主要な河川について、平成22年度に4回の水質調査を実施しました。なお、水質の改善がみられた豆腐川、稲瀬川、極楽寺川、音無川、行合川は13年度から対象外としています。また、県管理で県による水質測定を実施している滑川、神戸川についても16年度から対象外とし、県の測定値を記載しています。

そのほか、毎月1回河川パトロールを実施し、河川水質の監視を行っています。

ア 各物質経年変化

(7) 生物化学的酸素要求量（BOD）75%水質値経年変化（単位：mg/l）

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	1.5	1.6	1.1	1.4	1.1	3以下
神戸川	1.6	1.6	1.2	1.2	1.1	3以下
大塚川	5.3	4.3	3.4	2.1	1.9	8以下
新川	1.1	1.5	1.5	1.0	2.2	8以下
梶原川	0.9	1.5	0.9	1.1	1.8	8以下
町屋川	1.4	2.0	1.7	1.2	2.7	8以下
山崎川	4.3	2.4	2.8	2.1	1.9	8以下
小袋谷川	5.2	5.2	2.4	2.2	3.8	8以下
砂押川	5.5	4.0	3.9	4.9	2.8	8以下
玉縄雨水幹線	4.5	3.8	4.3	3.5	2.3	8以下

(イ) 浮遊物質（SS）年平均値経年変化（単位：mg/l）

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	5	5	4	7	4	25以下
神戸川	3	4	3	3	4	25以下
大塚川	3	2	3	3	2	100以下
新川	3	3	5	18	2	100以下
梶原川	2	1	2	7	2	100以下
町屋川	2	1	2	4	1	100以下
山崎川	3	3	2	4	4	100以下
小袋谷川	4	4	2	3	2	100以下
砂押川	4	6	2	4	3	100以下
玉縄雨水幹線	3	3	2	9	2	100以下

(ウ) 溶存酸素量（DO）年平均値経年変化（単位：mg/l）

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	8.3	8.3	8.7	8.5	9.4	5以上
神戸川	8.7	8.5	9.2	8.7	9.5	5以上
大塚川	5.8	7.2	6	6.5	10.9	2以上
新川	10.9	11.3	10.7	10.9	11.7	2以上
梶原川	10.7	10.8	9.4	9.7	12.0	2以上
町屋川	9.3	9.6	8.7	9.0	10.9	2以上
山崎川	8.3	8.6	7.8	7.8	8.6	2以上
小袋谷川	7.6	9	8.3	8.1	9.6	2以上
砂押川	9.7	10	9.4	8.9	12.2	2以上
玉縄雨水幹線	7.4	8.1	8.5	7.7	8.9	2以上

(イ) 全窒素年平均値経年変化 (単位 : mg/l)

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	3.3	2.5	1.5	1.3	1.5	—
神戸川	4.3	2.8	1.7	1.6	1.6	—
大塚川	3.4	3.2	2.8	2.4	2.3	—
新川	1.8	1.5	1.7	1.8	1.6	—
梶原川	1.2	1.1	1.2	1.4	1.3	—
町屋川	2.9	3.0	2.0	2.3	1.7	—
山崎川	11	8.0	9.0	14	11	—
小袋谷川	2.3	1.9	2.1	2.1	1.7	—
砂押川	2.3	2.3	2.1	1.9	1.7	—
玉縄雨水幹線	4.5	2.8	2.8	2.2	2.3	—

(オ) 陰イオン界面活性剤年平均値経年変化 (単位 : mg/l)

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	<0.03	<0.03	<0.03	0.03	<0.03	—
神戸川	<0.03	<0.03	<0.03	0.03	<0.03	—
大塚川	0.17	0.12	0.16	0.07	<0.03	—
新川	<0.03	0.03	<0.03	<0.03	<0.03	—
梶原川	<0.03	0.03	<0.03	<0.03	<0.03	—
町屋川	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	—
山崎川	0.03	0.02	<0.03	<0.03	<0.03	—
小袋谷川	0.18	0.18	0.03	0.03	<0.03	—
砂押川	0.10	0.06	0.04	0.04	<0.03	—
玉縄雨水幹線	0.10	0.11	0.23	0.23	<0.03	—

(カ) 全燐年平均値経年変化 (単位 : mg/l)

河川名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	環境基準
滑川	0.33	0.30	0.27	0.25	0.25	—
神戸川	0.25	0.18	0.15	0.14	0.13	—
大塚川	0.30	0.23	0.27	0.20	0.16	—
新川	0.17	0.16	0.22	0.16	0.14	—
梶原川	0.14	0.15	0.15	0.11	0.11	—
町屋川	0.14	0.18	0.16	0.10	0.13	—
山崎川	1.5	1.3	1.5	1.7	1.8	—
小袋谷川	0.29	0.25	0.27	0.23	0.21	—
砂押川	0.22	0.19	0.19	0.16	0.13	—
玉縄雨水幹線	0.50	0.33	0.54	0.38	0.38	—

平成22年度河川水質調査結果表

大塚川

(調査地点: 村山橋)

環境基準: 境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	欠測			
採水時間	11:25	11:09	11:05				
気温 (°C)	21.7	31.2	18.0				観測項目
水温 (°C)	21.7	26.2	16.2				
外観	無色	無色	無色				
透視度 (cm)	30 +	30 +	30 +				
臭気	無臭	無臭	無臭				
硝酸性窒素 (mg/l)	1.8	1.4	1.7		1.6	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5		<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	7.9	7.9	7.8		7.9	適	生活環境項目
生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.9	2.8	1.6		2.1(1.9)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	4.1	4.2	3.8		4.0		
浮遊物質 (SS) (mg/l)	4.1	1.2	1.6		2.3	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	11.0	13.7	8.03		10.9	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	490	930	1500		970		
全窒素 (mg/l)	2.6	2.1	2.3		2.3		
全リン (mg/l)	0.15	0.17	0.16		0.16		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5		<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.13	0.30	0.25		0.23		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03		<0.03		その他の項目
磷酸態リン (mg/l)	0.14	0.16	0.15		0.15		
塩化物イオン (mg/l)	20	25	25		23		
電気伝導率 (mS/m)	42	45	48		45		

※( )数字は75%水質値を表示

平成22年度河川水質調査結果表

新川

(調査地点: 梶原橋)

環境基準: 境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	11:10	10:58	10:52	11:44			
気温 (°C)	22.4	31.8	17.9	11.0			観測項目
水温 (°C)	22.3	29.7	15.1	9.6			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	1.30	0.72	1.3	1.3	1.2	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	8.0	8.5	7.9	8.3	8.2	適	生活環境項目
生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.2	5.5	0.4	2.2	2.3(2.2)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	2.8	3.6	2.8	3.5	3.2		
浮遊物質量 (SS) (mg/l)	2.5	0.9	1.4	1.7	1.6	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	12.0	8.93	9.42	16.5	11.7	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	170	430	4300	36	1200		
全窒素 (mg/l)	1.6	1.2	1.7	1.7	1.6		
全リン (mg/l)	0.13	0.18	0.14	0.12	0.14		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.08	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
磷酸態リン (mg/l)	0.12	0.16	0.14	0.11	0.13		
塩化物イオン (mg/l)	18	28	21	18	21		
電気伝導率 (mS/m)	39	42	42	40	41		

※( )数字は75%水質値を表示

# 平成22年度河川水質調査結果表

梶原川

(調査地点: 中外製薬脇)

環境基準: 境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	11:00	10:49	10:40	11:33			
気温 (°C)	22.6	31.1	18.0	10.9			観測項目
水温 (°C)	21.8	30.0	16.4	9.9			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	0.96	0.59	1.0	0.9	0.9	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	7.9	7.6	8.1	7.8	適	生活環境項目
生物学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.3	3.1	0.3	1.8	1.6(1.8)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	2.7	2.9	2.6	2.6	2.7		
浮遊物質量 (SS) (mg/l)	2.6	2.5	1.3	1.6	2.0	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	13.0	8.18	8.93	17.8	12.0	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	330	230	92	36	170		
全窒素 (mg/l)	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3		
全リン (mg/l)	0.14	0.12	0.10	0.07	0.11		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.07	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		その他の項目
磷酸態リン (mg/l)	0.12	0.12	0.08	0.07	0.10		
塩化物イオン (mg/l)	15	17	17	16	16		
電気伝導率 (mS/m)	37	39	37	39	38		

※( )数字は75%水質値を表示

平成22年度河川水質調査結果表

町屋川

(調査地点:ダイヤハイツ裏)

環境基準:境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	10:40	10:38	10:27	11:20			
気温 (°C)	23.2	31.0	19.0	11.8			観測項目
水温 (°C)	21.6	30.5	17.2	11.7			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	1.1	1.1	1.3	1.1	1.2	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	7.9	7.8	8.2	7.9	適	生活環境項目
生物学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.3	3.0	0.5	2.7	1.9(2.7)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	3.2	3.5	3.6	4.2	3.6		
浮遊物質 (SS) (mg/l)	1.2	1.1	1.2	1.0	1.1	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	10.0	8.27	8.56	16.6	10.9	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	170	210	36	92	130		
全窒素 (mg/l)	1.8	1.6	1.7	1.7	1.7		
全リン (mg/l)	0.12	0.14	0.13	0.11	0.13		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.11	0.11	0.09	0.16	0.12		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		その他の項目
磷酸態リン (mg/l)	0.11	0.14	0.12	0.09	0.12		
塩化物イオン (mg/l)	25	40	42	74	45		
電気伝導率 (mS/m)	45	46	47	59	49		

※( )数字は75%水質値を表示

平成22年度河川水質調査結果表

山崎川

(調査地点:菱電湘南エレクトロニクス(株)裏)

環境基準:境川流域D類型

項 目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採 水 月 日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採 水 時 間	10:21	10:17	10:10	10:20			
気 温 (°C)	21.5	30.5	18.8	8.6			観測項目
水 温 (°C)	23.4	29.4	22.9	18.0			
外 観	無色	無色	無色	無色			
透 視 度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭 気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝 酸 性 窒 素 (mg/l)	11.0	4.2	11.0	11.0	9.3	適	
亜 硝 酸 性 窒 素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水 素 イ オ ン 濃 度 (pH)	6.9	7.2	6.9	6.8	7.0	適	生活環境項目
生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.6	5.7	1.4	1.9	2.7(1.9)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	7.8	7.2	7.4	7.8	7.6		
浮遊物質量(SS) (mg/l)	3.5	4.4	2.7	4.3	3.7	適	
溶存酸素量(DO) (mg/l)	10.0	6.64	7.56	10.0	8.6	適	
大腸菌群数(MPN/100ml)	20	3.6	3.6	3.6	7.7		
全 窒 素 (mg/l)	12	6.5	11	14	11		
全 磷 (mg/l)	1.4	1.6	2.0	2.0	1.8		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.08	0.20	0.08	0.09	0.11		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
磷酸態磷 (mg/l)	1.2	1.6	2.0	2.0	1.7		
塩化物イオン (mg/l)	44	56	57	44	50		
電気伝導率 (mS/m)	40	42	41	43	42		

※( )数字は75%水質値を表示

平成22年度河川水質調査結果表

小袋谷川

(調査地点:大船橋)

環境基準:境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	9:40	9:35	9:36	9:40			
気温 (°C)	19.9	30.9	17.0	8.7			観測項目
水温 (°C)	19.7	27.7	16.1	10.2			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	1.3	0.91	1.2	1.3	1.2	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	7.8	7.9	7.7	7.8	7.8	適	生活環境項目
生物学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	0.9	4.0	1.4	3.8	2.5(3.8)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	3.2	3.5	3.2	3.8	3.4		
浮遊物質 (SS) (mg/l)	2.6	2.1	1.2	1.0	1.7	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	12.0	6.15	8.07	12.0	9.6	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	330	230	750	430	440		
全窒素 (mg/l)	1.8	1.1	2.0	2.0	1.7		
全リン (mg/l)	0.22	0.21	0.21	0.18	0.21		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.15	0.08	0.23	0.13	0.15		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
磷酸態リン (mg/l)	0.19	0.21	0.21	0.14	0.19		
塩化物イオン (mg/l)	12	15	16	14	14		
電気伝導率 (mS/m)	37	31	32	31	33		

※( )数字は75%水質値を表示



# 平成22年度河川水質調査結果表

砂押川

(調査地点: 日通(株)大船営業所脇)

環境基準: 境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	9:30	9:18	9:25	9:29			
気温 (°C)	20.1	30.6	15.7	9.4			観測項目
水温 (°C)	19.8	28.7	15.6	8.7			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	1.1	<0.05	1.2	0.9	0.8	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	8.0	8.7	8.1	8.2	8.3	適	生活環境項目
生物学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	1.4	2.8	1.8	3.5	2.4(2.8)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	3.6	4.7	4.2	4.6	4.3		
浮遊物質 (SS) (mg/l)	3.7	4.5	1.5	3.2	3.2	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	16	10.4	8.31	13.9	12.2	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	1300	46000	24000	4600	19000		
全窒素 (mg/l)	2.0	1.2	2.1	1.6	1.7		
全リン (mg/l)	0.10	0.14	0.16	0.11	0.13		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	0.12	0.51	0.37	0.19	0.30		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
磷酸態リン (mg/l)	0.09	0.14	0.14	0.06	0.11		
塩化物イオン (mg/l)	10	14	15	14	13		
電気伝導率 (mS/m)	41	55	57	66	55		

※( )数字は75%水質値を表示

# 平成22年度河川水質調査結果表

玉縄雨水幹線

(調査地点: フラワーセンター脇)

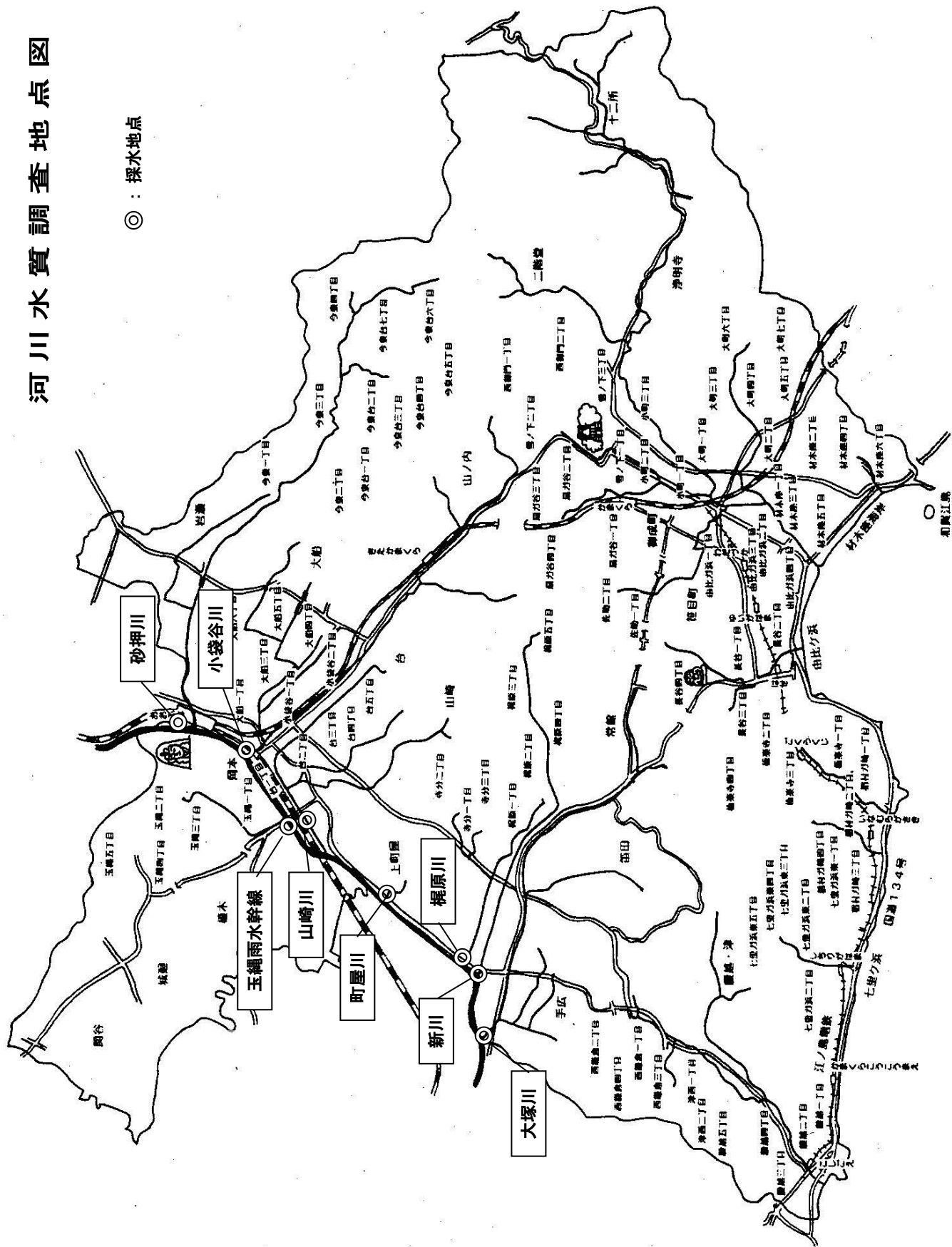
環境基準: 境川流域D類型

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	平均値	適否	
採水月日	H22.5.27	H22.8.5	H22.11.11	H23.2.3			
採水時間	10:05	10:09	9:52	10:00			
気温 (°C)	19.9	28.1	18.2	11.0			観測項目
水温 (°C)	19.8	27.2	19.4	13.5			
外観	無色	無色	無色	無色			
透視度 (cm)	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>	30 <sup>+</sup>			
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭			
硝酸性窒素 (mg/l)	1.4	1.3	1.0	2.3	1.5	適	
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	適	
水素イオン濃度 (pH)	7.9	8.0	7.9	7.7	7.9	適	生活環境項目
生物学的酸素要求量(BOD) (mg/l)	2.2	4.2	1.1	2.3	2.5(2.3)	適	
化学的酸素要求量(COD) (mg/l)	4.6	4.7	5.0	3.5	4.5		
浮遊物質 (SS) (mg/l)	2.6	1.2	1.2	1.2	1.6	適	
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	10	10.9	8.12	6.59	8.9	適	
大腸菌群数 (MPN/100ml)	230	92	150	92	140		
全窒素 (mg/l)	3.3	1.8	1.1	2.9	2.3		
全リン (mg/l)	0.22	0.45	0.38	0.47	0.38		
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		
アンモニア性窒素 (mg/l)	<0.05	0.09	0.10	0.09	0.08		
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
磷酸態リン (mg/l)	0.19	0.44	0.36	0.45	0.36		
塩化物イオン (mg/l)	12	15	15	14	14		
電気伝導率 (mS/m)	39	42	37	37	39		

※( )数字は75%水質値を表示

# 河川水質調査地点図

◎：採水地点



## (3) 神奈川県による水質測定結果 (年間平均値)

## ア 河川 (滑川・神戸川)

項 目	河 川 名		項 目	河 川 名	
	滑川 (滑川橋)	神戸川 (神戸橋)		滑川 (滑川橋)	神戸川 (神戸橋)
気温 (°C)	15.8	15.8	1,1,2-トリクロロエタン (mg/l)	<0.0006	<0.0006
水温 (°C)	16.6	16.1	トリクロロエチレン (mg/l)	<0.002	<0.002
透視度 (cm)	93.3	97.4	テトラクロロエチレン (mg/l)	<0.0005	<0.0005
流量 (m <sup>3</sup> /s)	0.42	0.19	1,3-ジクロロプロペン (mg/l)	<0.0002	<0.0002
水素イオン濃度 (pH)	8.2	8.2	チウラム (mg/l)	<0.0006	<0.0006
生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/l)	1.0	1.0	シマジン (mg/l)	<0.0003	<0.0003
生物化学的酸素要求量 (BOD) (75%値) (mg/l)	1.1	1.1	チオベンカルブ (mg/l)	<0.002	<0.002
化学的酸素要求量 (COD) (mg/l)	3.5	3.5	ベンゼン (mg/l)	<0.001	<0.001
化学的酸素要求量 (COD) (75%値) (mg/l)	4.0	3.6	セレン (mg/l)	<0.002	<0.002
浮遊物質 (SS) (mg/l)	4	4	フェノール類 (mg/l)	<0.005	<0.005
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	9.4	9.5	銅 (mg/l)	<0.01	<0.01
大腸菌群数 (MPN/100ml)	3.9E+04	1.2E+04	全亜鉛 (mg/l)	0.009	0.009
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	<0.5	<0.5	溶解性鉄 (mg/l)	0.03	0.06
カドミウム (mg/l)	<0.001	<0.001	溶解性マンガン (mg/l)	0.02	0.04
全シアン (mg/l)	ND	ND	有機リン化合物 (EPN) (mg/l)	<0.0006	<0.0006
鉛 (mg/l)	<0.005	<0.005	総クロム (mg/l)	<0.02	<0.02
六価クロム (mg/l)	<0.02	<0.02	ふっ素 (mg/l)	—	0.16
砒素 (mg/l)	<0.005	<0.005	ほう素 (mg/l)	—	0.12
総水銀 (mg/l)	<0.0005	<0.0005	ニッケル (mg/l)	<0.008	<0.008
アルキル水銀 (mg/l)	—	—	全燐 (mg/l)	0.25	0.13
ポリ塩化ビフェニル (PCB) (mg/l)	ND	ND	磷酸態燐 (mg/l)	0.21	0.11
ジクロロメタン (mg/l)	<0.002	<0.002	全窒素 (mg/l)	1.5	1.6
四塩化炭素 (mg/l)	<0.0002	<0.0002	アンモニア性窒素 (mg/l)	0.06	0.06
1,2-ジクロロエタン (mg/l)	<0.0004	<0.0004	亜硝酸性窒素及び 硝酸性窒素 (mg/l)	0.98	1.1
1,1-ジクロロエチレン (mg/l)	<0.002	<0.002	塩化物イオン (mg/l)	2000	230
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/l)	<0.004	<0.004	陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03
1,1,1-トリクロロエタン (mg/l)	<0.0005	<0.0005			

イ 海域（由比ヶ浜沖・七里ヶ浜沖）

(7) 全層

項目	海 域 名		項目	海 域 名	
	由比ヶ浜沖 (全層)	七里ヶ浜沖 (全層)		由比ヶ浜沖 (全層)	七里ヶ浜沖 (全層)
気温(°C)	19.1	19.4	トリクロロエチレン(mg/l)	<0.002	<0.002
水温(°C)	19.8	20.0	テトラクロロエチレン(mg/l)	<0.0005	<0.0005
透明度(m)	10.4	10.6	1,3-ジクロロプロペン(mg/l)	<0.0002	<0.0002
水素イオン濃度(pH)	8.3	8.3	チウラム(mg/l)	<0.0006	<0.0006
化学的酸素要求量(COD)(mg/l)	1.6	1.6	シマジン(mg/l)	<0.0003	<0.0003
化学的酸素要求量(COD)(75%値)(mg/l)	1.9	2.1	チオベンカルブ(mg/l)	<0.002	<0.002
溶存酸素量(DO)(mg/l)	7.6	7.5	ベンゼン(mg/l)	<0.001	<0.001
大腸菌群数(MPN/100ml)	5.0E+00	5.0E+00	セレン(mg/l)	<0.002	<0.002
n-ヘキサン抽出物質(mg/l)	ND	ND	フェノール類(mg/l)	<0.005	—
カドミウム(mg/l)	<0.001	<0.001	銅(mg/l)	<0.01	—
全シアン(mg/l)	ND	ND	全亜鉛(mg/l)	0.002	0.001
鉛(mg/l)	<0.005	<0.005	溶解性鉄(mg/l)	<0.02	—
六価クロム(mg/l)	<0.02	<0.02	溶解性マンガン(mg/l)	<0.01	—
砒素(mg/l)	<0.005	<0.005	有機燐化合物(EPN)(mg/l)	<0.0006	—
総水銀(mg/l)	<0.0005	<0.0005	ニッケル(mg/l)	<0.008	—
アルキル水銀(mg/l)	—	—	全燐(mg/l)	0.021	0.022
ポリ塩化ビフェニル(PCB)(mg/l)	ND	—	燐酸態燐(mg/l)	0.008	0.008
ジクロロメタン(mg/l)	<0.002	<0.002	全窒素(mg/l)	0.23	0.24
四塩化炭素(mg/l)	<0.0002	<0.0002	アンモニア性窒素(mg/l)	<0.04	<0.04
1,2-ジクロロエタン(mg/l)	<0.0004	<0.0004	亜硝酸性窒素及び 硝酸性窒素(mg/l)	0.12	0.12
1,1-ジクロロエチレン(mg/l)	<0.002	<0.002	塩分濃度(‰)	33.73	33.74
シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/l)	<0.004	<0.004	陰イオン界面活性剤(mg/l)	<0.03	<0.03
1,1,1-トリクロロエタン(mg/l)	<0.0005	<0.0005	クロロフィルa(μg/l)	2.6	1.6
1,1,2-トリクロロエタン(mg/l)	<0.0006	<0.0006			

## (イ) 上層

項 目	海 域 名	
	由比ヶ浜沖	七里ヶ浜沖
	(上層)	(上層)
水温 (°C)	20.2	20.4
水素イオン濃度 (pH)	8.3	8.3
化学的酸素要求量 (COD) (mg/l)	1.8	1.7
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	7.8	7.6
大腸菌群数 (MPN/100ml)	5.0E+00	5.0E+00
n-ヘキサン抽出物質 (mg/l)	ND	ND
全窒素 (mg/l)	0.23	0.24
全磷 (mg/l)	0.020	0.021
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.05	<0.05
硝酸性窒素 (mg/l)	0.07	0.08
アンモニア性窒素 (mg/l)	<0.04	<0.04
磷酸態磷 (mg/l)	0.007	0.008
塩分濃度 (‰)	33.51	33.53
陰イオン界面活性剤 (mg/l)	<0.03	<0.03
クロロフィル a (μg/l)	2.6	1.6

## (ウ) 下層

項 目	海 域 名	
	由比ヶ浜沖	七里ヶ浜沖
	(下層)	(下層)
水温 (°C)	19.4	19.6
水素イオン濃度 (pH)	8.3	8.3
化学的酸素要求量 (COD) (mg/l)	1.4	1.5
溶存酸素量 (DO) (mg/l)	7.2	7.3
全窒素 (mg/l)	0.23	0.24
全磷 (mg/l)	0.021	0.023
亜硝酸性窒素 (mg/l)	<0.05	<0.05
硝酸性窒素 (mg/l)	0.07	0.07
アンモニア性窒素 (mg/l)	<0.04	<0.04
磷酸態磷 (mg/l)	0.009	0.009
塩分濃度 (‰)	33.95	33.96

### 第3章 公害の現況と対策 Ⅲ化学物質

#### (1) 環境基準

##### ア ベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンによる大気汚染に係る環境基準

物質	環境基準	測定方法
ベンゼン	一年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること	キャニスター若しくは捕集管により採取した試料をガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法又はこれと同等以上の性能を有すると認められる方法
トリクロロエチレン	一年平均値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること	キャニスター若しくは捕集管により採取した試料をガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法又はこれと同等以上の性能を有すると認められる方法
テトラクロロエチレン	一年平均値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること	キャニスター若しくは捕集管により採取した試料をガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法又はこれと同等以上の性能を有すると認められる方法
ジクロロメタン	一年平均値が $0.15\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること	キャニスター若しくは捕集管により採取した試料をガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法又はこれと同等以上の性能を有すると認められる方法

##### イ ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準

媒体	基準値	測定方法
大気	$0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下	ポリウレタンフォームを装着した採取筒をろ紙後段に取り付けたエアサンプラーにより採取した試料を高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法
水質	$1\text{pg-TEQ}/\text{l}$ 以下	日本工業規格K0312に定める方法
水底の底質	$150\text{pg-TEQ}/\text{g}$ 以下	水底の底質中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法
土壌	$1,000\text{pg-TEQ}/\text{g}$ 以下	土壌中に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法

#### 備考

- 1 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。
- 2 大気及び水質の基準値は、年間平均値とする。
- 3 土壌にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が $250\text{pg-TEQ}/\text{g}$ 以上の場合には、必要な調査を実施することとする。

(2) 一般環境におけるダイオキシン類等の測定結果

ダイオキシン類の測定は、ダイオキシン類対策特別措置法の施行により、神奈川県が常時監視等を実施しています。市では、鎌倉市役所本庁舎屋上において有害大気汚染物質の調査を実施しました。それらの結果は、全てにおいて環境基準を満足した値でした。

ア 大気（県測定）（単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>）

鎌倉市役所本庁舎屋上	夏季	冬季	平均値	環境基準
ダイオキシン類	0.029	0.042	0.035	0.6以下

イ 大気（市測定）（単位：mg/m<sup>3</sup>）

鎌倉市役所本庁舎屋上	5月	8月	11月	2月	平均値	環境基準
ベンゼン	0.0003未満	0.0007	0.0013	0.0010	0.0008	0.003以下
トリクロロエチレン	0.0001未満	0.0002	0.0008	0.0004	0.0004	0.2以下
テトラクロロエチレン	0.0001未満	0.0001未満	0.0002	0.0002	0.0002	0.2以下
ジクロロメタン	0.0003	0.0010	0.0013	0.0008	0.0009	0.15以下

ウ 河川水質（県測定）（単位：pg-TEQ/l）

採取河川	滑川	神戸川	環境基準
ダイオキシン類	0.030	0.037	1以下

エ 河川底質（県測定）（単位：pg-TEQ/g）

採取河川	滑川	神戸川	環境基準
ダイオキシン類	0.61	1.6	150以下

オ 地下水水質（県測定）（単位：pg-TEQ/l）

採取地点	鎌倉市小袋谷	環境基準
ダイオキシン類	—	1以下

カ 海域水質（県測定）（単位：pg-TEQ/l）

採取海域	由比ヶ浜沖	環境基準
ダイオキシン類	—	1以下

キ 海域底質（県測定）（単位：pg-TEQ/g）

採取海域	由比ヶ浜沖	環境基準
ダイオキシン類	—	150以下



ク 土壌（県測定）（単位：pg-TEQ/g）

採取地点	鎌倉市高野	鎌倉市玉縄	環境基準
ダイオキシン類	—	—	1000以下

参考

- (i) 1pg（ピコグラム）・・・1兆分の1グラム。
- (ii) TEQ（毒性等量）・・・ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性が強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算した量として評価したものです。TEF（毒性等価係数）はWH01998を使用。
- (iii) 環境基準・・・人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準。その法的性格は、あくまで行政上の政策目標であり、事業活動等に関し直接に規制数値として働くものではありません。

### 第3章 公害の現況と対策 V地盤沈下

#### (1) 地盤沈下調査

地盤沈下は環境基本法に定められた典型七公害のひとつですが、他の公害と異なり目に見える変化は少なく、社会的認識に乏しい公害といえます。しかし、一度被害が生じると原状回復は非常に困難であり、社会的にも大きな影響をもたらします。地盤沈下の主な原因は、地下水の過剰な採取に伴う地下水位の低下により、粘土層が圧密されることによって生じるとするのが定説となっています。対策としては、工業用水法や神奈川県生活環境の保全等に関する条例で地域指定し、地下水採取について規制を行っています。

本市についてはこの指定地域外ですが、昭和52年から柏尾川周辺の工業地域を中心に水準測量調査を行っています。平成22年度の地盤沈下調査は昨年度と同地点の14地点で測量が行われました。

平成22年度の調査結果から、地盤沈下の状況について評価すると、有効水準点数14地点のうち、すべての地点で沈下が認められました。沈下地点の最高変動量は、0.38センチメートル、全地点での変動量は1センチメートル未満でした。前年度も隆起量及び沈下量が軽微であったことから、当該地域の地盤沈下は沈静化の傾向にあると思われます。

#### 用語の説明

水準測量・・・土地の高さ（標高）を精密に測定するため、調査対象区域に水準点を定め測量することをいいます。これは、各種測量の高さに基準を与えるとともに、地盤沈下の実態の解明や、地震予知の基礎資料の提供に大きく貢献しています。水準点は300～500メートル間隔に金属標または石標を配置し、水準儀及び標尺を用いて日本水準原点（国内の高さの基準となる点として、東京都千代田区永田町にある。）及びこれに準ずる水準基点の高さと順次比べて高低差を求めます。

沈下量・・・例えば、平成22年の沈下量とは、平成23年1月1日の水準測量の調査結果に基づいて、同一水準点における平成23年1月1日の標高値と平成22年1月1日の標高値の差を示します。

#### ア 水準点位置

水準点番号	設置箇所	所在地	備考
I 5360-1	チュリス鎌倉マンション横（国家水準点）	鎌倉市手広42番地	変更なし
1	(株)神戸製鋼藤沢工場	藤沢市宮前字裏河内100番地	変更なし
2	三菱電機(株)鎌倉製作所	鎌倉市上町屋325番地	変更なし
4	県立フラワーセンター大船植物園	鎌倉市岡本1018番地	変更なし
5	電気化学工業(株)	鎌倉市台二丁目13番1号	変更なし
7	三菱電機(株)情報技術総合研究所	鎌倉市大船五丁目1番1号	変更なし
BM. 3	玉縄橋横歩道横	鎌倉市岡本字耕地1010番地1先	変更なし
BM. 4	大和橋横歩道前	鎌倉市岡本字耕地55番地1先	変更なし
BM. 11	山崎浄化センター横歩道	鎌倉市山崎字上河内589番地5先	変更なし
BM. 12	神鋼橋横歩道	鎌倉市寺分字堅畑214番地60先	変更なし
BM. 13	深沢派出所横歩道	鎌倉市笛田字上耕地163番地2先	変更なし
BM. 18	大船体育館	鎌倉市台三丁目390番1号	変更なし
BM. 303	玉縄青少年会館横歩道	鎌倉市玉縄一丁目2番地1号先	亡失
BM. 306	玉縄小学校	鎌倉市玉縄一丁目860番地	変更なし
BM. 307	大船行政センター	鎌倉市大船二丁目1番25号	変更なし

イ 地盤沈下調査水準測量成果表

調査場所		項目	※2000年 改算値	平成20年 1月1日	平成21年 1月1日	平成22年 1月1日	平成23年 1月1日
I 5360-1 手広	チュリス鎌倉マン ション横	標高(m)	7.6194	7.6107	7.6086	7.6069	7.6062
		変動量(cm)		-0.56	0.21	-0.17	-0.07
1 藤沢市宮前	(株)神戸製鋼藤沢 工場	標高(m)	8.0295	8.0203	8.0191	8.0174	8.0169
		変動量(cm)		-0.57	-0.12	-0.17	-0.05
2 上町屋	三菱電機株鎌倉製 作所	標高(m)	8.3032	8.2939	8.293	8.2913	8.2903
		変動量(cm)		-0.51	-0.09	-0.17	-0.10
4 岡本	県立フラワーセン ター大船植物園	標高(m)	7.6458	7.6398	7.6388	7.6351	7.6330
		変動量(cm)		-0.37	-0.1	-0.37	-0.21
5 台	電気化学工業(株)	標高(m)	9.4769	9.4631	9.4605	9.4573	9.4546
		変動量(cm)		-0.52	-0.26	-0.32	-0.27
7 大船	三菱電機(株)情報 技術総合研究所	標高(m)	10.5309	10.5125	10.5085	10.5053	10.5039
		変動量(cm)		-0.48	-0.4	-0.32	-0.14
BM. 3 岡本	玉縄橋横歩道	標高(m)	10.2644	10.2584	10.2583	10.2547	10.2528
		変動量(cm)		-0.36	-0.01	-0.36	-0.19
BM. 4 岡本	大和橋横歩道	標高(m)	—	10.3334	10.3335	10.3305	10.3292
		変動量(cm)		-0.53	+0.01	-0.3	-0.13
BM. 11 山崎	山崎浄化センター 横歩道	標高(m)	9.6897	9.682	9.6800	9.6764	9.6726
		変動量(cm)		-0.64	-0.2	-0.36	-0.38
BM. 12 寺分	神鋼橋横歩道	標高(m)	9.4087	9.3995	9.3986	9.3965	9.3964
		変動量(cm)		-0.50	-0.09	-0.21	-0.01
BM. 13 笛田	深沢派出所横歩道	標高(m)	7.8342	7.8257	7.8237	7.8217	7.8213
		変動量(cm)		-0.54	-0.2	-0.20	-0.04
BM. 18 台	大船体育館	標高(m)	—	9.946	9.9436	9.9415	9.9408
		変動量(cm)		-0.42	-0.24	-0.21	-0.07
BM. 303 玉縄	玉縄青少年会館横 歩道	標高(m)	—	9.8302	9.8293	9.8256	—
		変動量(cm)		-0.58	-0.09	-0.37	
BM. 306 玉縄	玉縄小学校	標高(m)	—	8.5855	8.5852	8.5810	8.5792
		変動量(cm)		-0.50	-0.03	-0.42	-0.18
BM. 307 大船	大船行政センター	標高(m)	9.275	9.2593	9.2564	9.2544	9.2533
		変動量(cm)		-0.53	-0.29	-0.20	-0.11

〔※2000年改算値〕欄の数値：基本水準点成果は、全国の水準点成果の整合性と正確性を図るため、最新の水準測量データを用い、日本水準原点を固定点とした全国同時平均計算（沖縄、離島を除く）が行われ、2000年度平均成果として、改定されることになりました。

国家水準点の2000年成果への移行に伴い、関東地区地盤沈下調査測量に不動点として使用していた11点の標高値も改定となりました。平成14年度観測終了後、観測結果に基準日補正計算（基準日：平成15年1月1日）を実施し、昨年度より2000年度成果に基づく標高値により、変動量を算出しています。

ウ 水準測量調査集計表

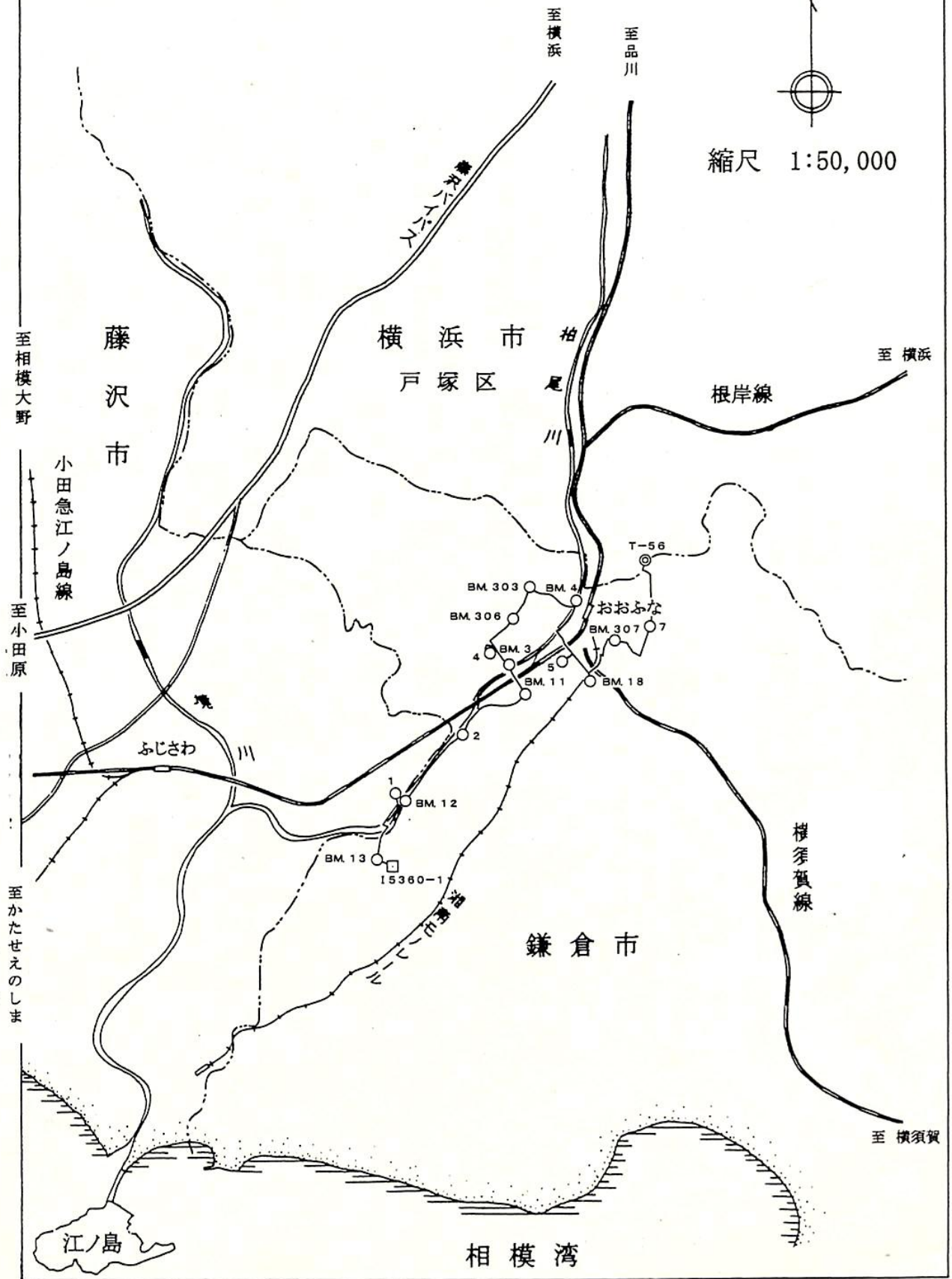
調査水準点数	16	測量延長 (km)	7.832
有効水準点数	15	調査面積 (km <sup>2</sup> )	6.423
沈下水準点数	15	沈下面積 (km <sup>2</sup> )	6.423
1cm未満	15	1cm未満	6.423
1cm以上 2cm未満	0	1cm以上 2cm未満	0
2cm以上 3cm未満	0	2cm以上 3cm未満	0
3cm以上 4cm未満	0	3cm以上 4cm未満	0
不動水準点数	0		
隆起水準点数	0	隆起面積 (km <sup>2</sup> )	0
1cm未満	0	1cm未満	0
1cm以上 2cm未満	0	1cm以上 2cm未満	0
2cm以上 3cm未満	0	2cm以上 3cm未満	0

区分	所在地	水準点番号	変動量 (mm)
本年度の年間最大沈下点	鎌倉市山崎上河内589番地5先	BM. 11	-3.80
最近5年間の累計最大沈下点	鎌倉市山崎上河内589番地5先	BM. 11	-23.10
調査開始(昭和52年)以来の 累計最大沈下点	鎌倉市大船五丁目1番1号	7	-208.80

平成22年度  
精密水準測量網図



縮尺 1:50,000



鎌倉市環境調査データ集（平成22度）

編集・発行

平成24年1月

鎌倉市環境部環境保全課

〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

電話（代表） 0467-23-3000

ダイヤルイン 0467-61-3420

FAX 0467-23-8700



古紙配合率70%再生紙を使用しています

表紙のみ古紙配合率100%再生紙を使用しています